

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

気をつけていただく内容です。

警告

**必ず規定容量のヒューズを使用する
また、交換は専門技術者に依頼する**

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や発煙・発火、故障の原因になります。ヒューズの交換や修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの「サービス相談窓口」にご依頼ください。

運転や視界を妨げたり、同乗者に危険をおよぼす場所には、絶対に取り付けない

運転に支障をきたす場所(シフトレバー、ブレーキペダル付近など)、前方・後方の視界を妨げる場所、同乗者に危険をおよぼす場所への取り付けは、交通事故やけがの原因になります。

取り付けには車両の保安部品のボルトやナットを絶対に使用しない

ステアリングやブレーキなどの保安部品のボルトやナットを使用して取り付けたら、事故の原因となります。

**運転者は走行中に操作をしない
また、画像・表示を注視しない**

走行中の操作や画像・表示の注視は、前方不注意による交通事故の原因になります。必ず安全な場所に停車し、サイドブレーキを引いた状態でご使用ください。

車のパイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認して取り付ける

車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線に干渉や接触しないようにしてください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を施してください。火災や感電、事故の原因になります。

コード類は、運転や乗り降りの妨げにならないように引き回す

ステアリング・シフトレバー・ブレーキペダル・足などに巻き付かないように引き回し、まとめたり固定しておくなどしてください。事故やけがの原因になります。

取り付け・配線後は、車の電装品が正常に動作することを確かめる

車の電装品(ブレーキ、ライト、ホーン、ハザード、ウィンカーなど)が正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、事故の原因になります。

DC12Vマイナス⊖アース車で使用する

DC12 Vマイナス⊖アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車(DC24 V車)には使用できません。火災や故障の原因となります。

警告

故障や異常のまま使用しない

煙が出る、変なにおいがする等の異常な状態で使用すると発火などの原因となります。
禁止
●直ちに使用を中止してお買い上げの販売店にご相談ください。

分解や改造はしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
分解禁止
●内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したらアンテナ線やテレビには触れない

感電の原因となります。
接触禁止

ケーブルクランパーなどの小物部品は、乳幼児の手の届くところに置かない

あやまって、飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。
禁止

機器内部に水や異物を入れない

内部に金属物や燃えやすいものなどが入ると、動作不良になるばかりでなく、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や発煙・発火、感電の原因となります。飲み物などがからないようにご注意ください。
禁止

使用しないコードの先端などは、絶縁する

被覆がない部分が車の金属部に接触しないように、テープなどで絶縁してください。ショートにより火災や感電の原因になります。

リモコンを放置しない

運転中に足もとに転がってブレーキペダルなどの下へ入り込むと、運転を妨げて交通事故の原因になります。
禁止

指示に従って正しく配線・取り付けを行う

説明書に従って正しく配線・取付をしないと火災や事故の原因となります。

大きな音量で使用しない

車外の音が聞こえない状態での運転は、交通事故の原因になります。
禁止

配線・取り付け作業中は、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしておく

バッテリーのマイナス⊖端子をつないだまま配線・取り付け作業をすると、ショート事故による感電やけがの原因になります。

メモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込む恐れがあります。
禁止
●万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付け・配線しない

エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機や部品が飛ばされ、事故やけがの原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。
禁止

確認

安全上のご注意

確認

安全上のご注意